弘化三丙午年諸國人數調○中略

御料私領一人數七拾九万四千六百九拾八人　高七拾六万七千七百八拾八石餘　信濃國

内四拾万三千八百六拾八人男　三拾九万八百三拾人女

〔令義解一職員〕彈正臺

尹一人掌肅清風俗　謂肅者敬也、風者氣也、俗者習也、土地水氣有緩急、聲有高下、謂之風焉、人居此地、習以成性、謂之俗焉、假令信濃國俗、夫死者卽以婦爲殉、若有此類者、正之以禮教、是以爲肅清風俗也、

風俗

〔人國記〕信濃國

信濃國之風俗ハ、武士之風俗天下一也、最百姓町人之風儀モ、其律義ナル事、伊賀、伊勢、志摩之風俗ニ、五畿内ヲ添タルヨリハ猶モ上也、所以者、義理强ク而臆スル事ナク、百人ニ九十人ハ律義也、タマタマ臆病成者有トイヘドモ、夫モ他國之如形之人ト云程ニハ有ラズシテ、タマ〳〵ノ物語ニモ、弱ミノ比興ノ事ハ無之、若シ比興ノ事ヲ述ベ、亦ナス時ハ、人皆是ヲ惡テ不交、故柔弱之人モ後ニハ義理ヲ知リテ、國風ト成ナリ、都而智惠モ餘國ヨリハ勝レタリ、然ドモ偏鄙之國成故ニ、カタクヘナキコトモ多シトイヘドモ、善十ニシテ惡一二之風俗也、

〔日本鹿子八〕同國○信濃　中名所之部

名所

木曾路　京より江戸まで木曾海道を行は、美濃國大井といふ宿より四り計行て、信州安裏郡木曾のうちなり、是より木曾路ト云、

出る峯入山のはのちかければ木曾路は月の影ぞみじかき

木曾御坂　まごめ峠といふ、是より深山に入、山坂多し、

信濃路や木曾の御坂の小笹原分行袖にかくや露けき

掛橋　是を木曾のかけ橋と云、あげ松と云宿より福島と云宿へ越る間也、則かけ橋と云里あり、